

教育の未来を変える サス学

S U S - G A K

「サス学」は三井物産株式会社の登録商標です。



ジェイシー教育研究所
企画営業部・SGX開発担当者
堀 洋一氏
「サス学」の可能性に魅せられ、講師として実践するだけでなく、「新しい学びのカたち」を共に作りあげていく仲間を増やしたいと考え、「サス学クラウドサービスSGX」を開発。

★「サス学」の魅力を知る4人が語る★

「サス学」とは、サステナブル(持続可能)な未来をつくるための知恵や価値観を育む探究型アクティブラーニング。この「新しい学びのカたち」である「サス学」を広く子どもたちに提供するために開発されたのが、「サス学」講師となり、「サス学」を導入するライセンスを得るための人材育成システムと教材システムを一体化した「サス学クラウドサービスSGX」です。今回は、SGXの開発担当者である堀洋一氏と、早くも「サス学」導入の効果を感じ始めている3人の塾代表に、その可能性を語り合っていました。

新たな学びや、塾のあり方を それぞれが模索したどり着いたのが「サス学」

——堀さんは「サス学クラウドサービスSGX」を提供するお立場ですが、原田さん、大南さん、廣瀬さんは、どのようなきっかけで「サス学」導入を決めたのですか。

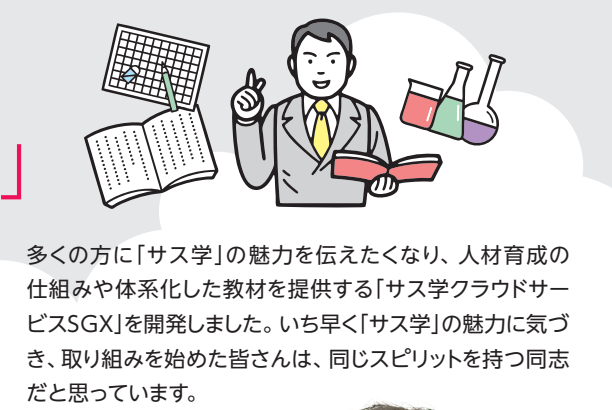
大南 一昨年、教育ITソリューションを見学に行き「サス学」の存在を知り、その後、「SGX」が本格的に展開を始めたのを機に導入しました。一歩塾をスタートして10年たちますが、それ以前は上場企業で採用担当を務めた経験があり、学力を上げること以上に、社会で活躍できる子どもを育てることに注力してきました。学校の授業は板書して終わり、考えるというプロセスがありません。しかし世の中に出れば、明確な解決策がない問題にも取り組まなければならない。その時に必要とされるのは想像力や思考力です。子どもたちに、もっと自ら考える力をつけさせたいと思い、「方眼ノート」を用いた思考メソッドを取り入れているのですが、「サス学」は方眼ノートとの相性も良いと感じています。

原田 「SOCRA」は今年30周年の節目を迎えるのですが、不思議とよくできた子どもより、できなかった子どものほうが記憶に残っていて、ふと、その子たちは、何かを得ることができたのだらうかと考えることがあります。できた子と、できなかった子の違いは何かというと、やはり、その子自身

のやる気のある・なしだと思うのですが、では、子どものやる気を育てるために何が必要なのか、どういうものを提供していくのがいいのか、いろいろ模索する中で出会ったのが「サス学」です。都内で開催されたワークショップに参加し、すぐに「これだ!」と思い、導入を決めました。

廣瀬 20年ほど塾講師を務めてきて、塾のあり方や役割の変化を感じていて、今年3月に自ら塾を開設しました。「サス学」との出会いが、昨年の2月です。答えのない問題に対応する力、新しい時代に必要な力を身に付けるにはどうしたらいいか、私教育としての塾が何を提供すべきかを考えていく中で探究学習を知り、探究学習を実践している塾のイベントで「サス学」を知りました。子どもたちに、もっと世の中の出来事に興味を持ってほしいという思いもあったので、さまざまな社会問題をテーマに、教科横断型の仕組みができていた「サス学」はピッタリだと感じました。

堀 皆さんと同じように、最近受験教育中心の塾のあり方に疑問を感じている方が多いようです。「サス学」はネクスファ(千葉県柏市)が開発し、三井物産(株)とともに育ててきたもので、当初は、私も講師として取り組んでいました。しかし、その本質を知れば知るほど、子どもの教育に関わる



多くの方に「サス学」の魅力を伝えたくなり、人材育成の仕組みや体系化した教材を提供する「サス学クラウドサービスSGX」を開発しました。いち早く「サス学」の魅力に気づき、取り組みを始めた皆さんは、同じスピリットを持つ同志だと思っています。

一歩塾(東京都立川市)
大南 和宏 代表
単なる成績向上、志望校合格だけでなく「社会で活躍できる人」「自分の夢を実現できる人」を育てるための学習塾を運営。小学生から大学生まで約6千名の若者の人生に関わってきた教育実践家。

異なる年齢が同じテーマに取り組み いくつもの答えを引き出す「サス学」羅針盤

——実際に「サス学」を導入してみて、変化を感じることはありますか。

大南 マグロやロボットなど、テーマが子どもたちにとっても身近なもので、実際に今、世の中で起きていることについて直感できる写真や動画が教材になっているので、子どもたちの興味の度合いが、ほかの授業とはまるで違います。小学2～6年生と一緒に課題に取り組んでいますが、年齢に応じてさまざまな考えが出てきて驚かされます。

原田 オリジナルの学習ツール「サス学」羅針盤が面白いですね。「自分ごとにする」というのが「サス学」のビッグキーワードだと思っているのですが、羅針盤を使うことで子供たちが、SDGsを身近なものとして理解し、社会課題を「自分ごと」として考えるようになり、いくつもの答えが導き出される。当塾では幼稚園から小学6年生までと一緒にやっていますが、年齢の開きがあっても問題にはなりません。幼稚園児は親子さんがいっしょに参加していますが、情報の

インプットの段階で、それがきちんと知識化されるように、教材の中のプロセスが完成しているのはすごいと思います。

堀 「サス学」は主に小学生を対象にしていますが、中学生や高校生はもちろん、大人も楽しみながら学ぶことができます。SDGsの目標に掲げられているような、地球規模の社会課題の解決に自由な視点で取り組むことができ、教科の枠も、年齢の枠もなく、時には教師と生徒の立場さえ逆転させる。ネットワークにアクセスすれば子どものほうがより幅広く多くの情報を集めることもあり、教師が子どもに教わるような場面も出てくる。それも魅力のひとつです。

大南 「サス学」は、自分自身の学びにもつながりますよね。私自身、「サス学」の導入をきっかけにSDGsについてあらためて勉強し始めたのですが、地球温暖化の現実や、世界のトイレ環境のことも、探究心と社会課題への意識を強く感じさせられる。自分が興味を持って授業に臨むから、子供たちも興味を持って受講してくれるのだと思います。

進学塾SOCRA & jr.
(埼玉県熊谷市他)
原田 勲 代表
ミライを創る子供たちの新しい学びの場「SOCRA(ソクラ)」を埼玉県で4校舎展開。中高一貫校生のための進学塾SOCRA、私国立・中学校を目指す進学塾SOCRAジュニア、新しいカタチの学び・好奇心を育てるSOCRA-WONDERを運営。

オンライン授業で知る「サス学」のさらなる可能性 withコロナ時代にこそ「サス学」が必要だ

——新型コロナウイルスの影響は、どのように感じていらっしゃいますか。

大南 3月から本格始動というときに外出自粛になり、オンライン授業に切り替えたのですが、「サス学」とオンライン授業は、予想以上に相性がいい。基本的には一人で調べたり、考えたりしてもらうのですが、自宅にいて、画面の向こうで親子が対話している様子が垣間見えるんです。中にはお母さんのほうが興味を持っていろいろ調べ始めたりして。5月の連休中に開催した「サス学」のイベントでは、大阪から参加した子どもが「これからもサス学を続けたい」と言って、入塾しました。

廣瀬 それは、ずっとオンラインで受講するということですよ。探究学習はフェイストゥフェイスでやるものという固定観念があったのですが、今はオンライン講義のみの大学もありますし、「サス学」にも大きな可能性を感じますね。

原田 休校により学びがストップしてしまったことで、親御さんもさまざまな不安を抱えています。塾は休ませたくないという人がいる一方で、感染が怖いから辞めさせたいという人もいし、この機会に後れを取り戻させたいという人など、考えはひとつではないので、ひとつのやり方だけを提示しても通用しないと感じます。子どもたちもいろいろで、塾に来なければやる気にならない子もいるし、自宅のほうが落ち着いて勉強できるということもあります。オンライン授業が浸透したことで、一か所に集まる必要がなくなったいま、第二波、第三波を想定して、どのように学びを継続するかを模索していく必要があるのではないのでしょうか。

堀 確かにそうですね。ただ、私個人としては「サス学」は、子どもたちと対面でやりたいと考えています。親子の対話が生まれたり、大勢の前では気後れて発言できない子が、自宅だとのびのびして積極的に声を上げたりということも

あるのですが、やはり、子供たちが目の前でさまざまな発想をひらめかせ、盛り上がる場面を見たいですね。

大南 リアルが大事なものはもちろんですが、オンライン授業の浸透によって、今までは遠くて通うことをあきらめていた塾も選択肢に入るようになる。何をどのように学ぶかを学ぶ側が選び、その目的にあった塾を全国から選べるということです。だからこそ、大阪からの入塾もあるわけで、立地による影響を受けにくくなると同時に、全国の塾が競合相手になる可能性もある。

堀 いろいろな可能性がありますが、今回の新型コロナウイルスのように、何が起こるかわからない現代社会において、絶えず変化する状況に対応できるだけの人間力が求められるようになることは確かです。さらに、探究心や、物事を追求する力。そうした力を育むために「サス学」が必要だということも多くの方に知ってもらいたいですね。

次世代型学習塾 エスファシル
(群馬県高崎市)
廣瀬 智博 代表
約20年、塾講師を務める中で塾のあり方、役割の変化を感じ、2020年3月にエスファシルを開校。技術革新とグローバル化が進む未来で力強く生きていける子どもを育てる学習塾を目指す。

SGXのコミュニティで講師同士が学び合う だから、いつ始めても遅くない

——最後に、「サス学」に関心を持たれている方や、導入を考えている方に向けてメッセージをお願いします。

廣瀬 「サス学」はそこで学んだことや、疑問に思ったことをほかの人とシェアして、一緒に考えることができます。生徒同士、あるいは先生と生徒で学びをシェアする。さらに、導入した塾、サス学に関わる人同士で考え方をシェアし、学び合う。これは、他にはない仕組みで、他の講師の実施例なども参考にできます。いつからでも始められるので、一緒に始めましょう。

原田 「SGX」の中にあるコミュニティの存在は大きいですね。ただ情報共有だけでなく、先に「サス学」に取り組み始めた人が、自ら学んだ知識や経験を後進に伝え、教える場になっています。もちろん、一方的に教えるわけではなく、疑問に感じていることなどを話し合い、互いに学び合う場です。自ら課題を見つけて、その問題を解決する能力というのはこれからの時代に欠かせない大事な資質です。それを子どもたちに教えたいけれどもいい方法が見つからない、という指導者にとって、「サス学」ほど有効な教材はないと思います。

大南 時代の変化の中で、学校も塾も、大きな転換期を迎えています。塾としては、受験対策に特化するという方向もありますが、教育の現場ではもっと違う「何か」が求められており、それを提供していくのも塾の役割です。そして、その「何か」とは、まさに「サス学」です。変わっていく未来の教育に、必要不可欠なものといってもいいと思います。高校のカリキュラムにも「探究」という授業が設けられ、学びたい人も増えてくるはずです。ただし、「話題になっている」「人気が出そう」という理由で、「サス学」を導入することはおすすめしません。探究学習では、指導する側の考え方や、生き方までも問われます。指導者として、また塾経営者としてどうありたい、どうあるべきかといった信念があり、自分の塾をブランディングしたいと考える人に、強くお勧めします。

堀 一方的に教材を提供するのはではなく、私も「サス学」講師の一人として皆さんとともに学び、「サス学」の可能性を広げていきたいと考えています。未来を担う子供たちのために、ともに「サス学」を広めていきたいと思います。

お問い合わせ先 **サス学クラウドサービスSGX**
「サス学」の知識・技術をはじめ、授業で利用する教材やアイデア、講師たちのコミュニケーションの場を提供します。

SGX
サス学クラウドサービス

詳しくは、
右記QRコードより
ご確認ください!

ジェイシー教育研究所

プログラミングと「サス学」がコラボ!
プログラミングを通して教育現場の課題を子どもたちと先生と一緒に解決していく大会「Programming Festival2020」に、協賛します。

詳しくは、
私教育新聞
同封チラシを
ご確認ください。

今年も開催!
Programming Festival 2020
プログラミングとサス学がコラボする大会
会場: 2020年9月12日(土) 13日(日) 両日開催
会場: 2020年9月12日(土) 13日(日) 両日開催
会場: 2020年9月12日(土) 13日(日) 両日開催